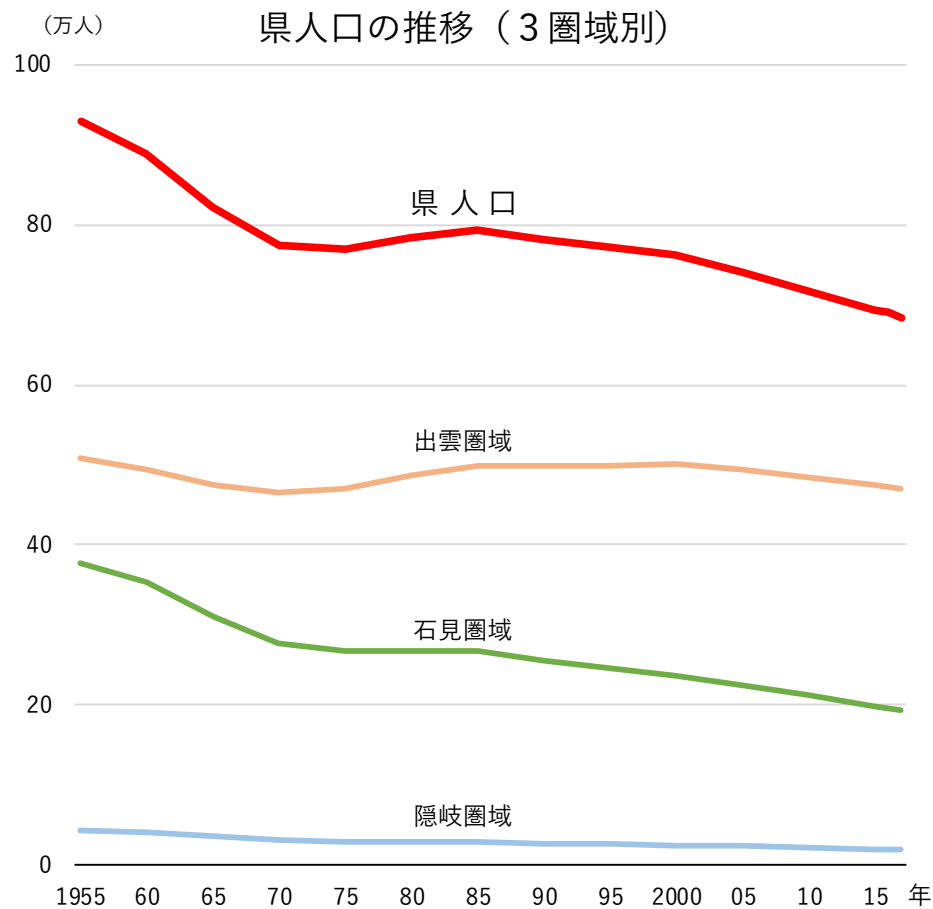
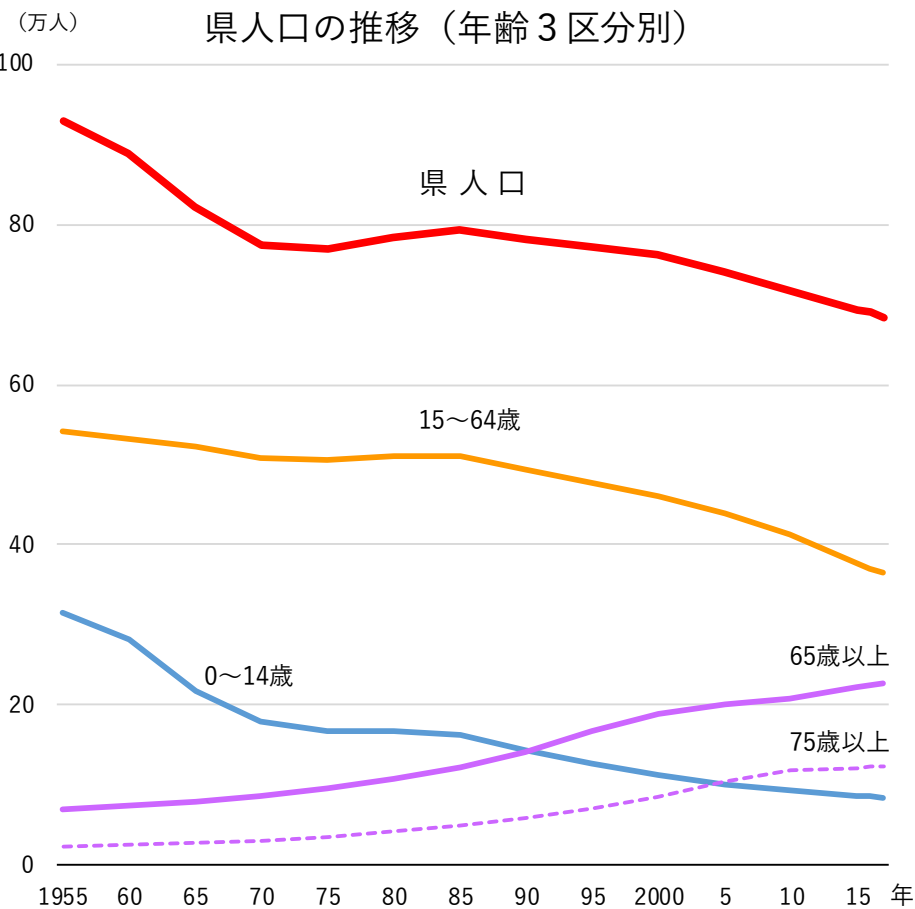


平成30年10月2日  
地方創生・行財政改革  
調査特別委員会資料  
政策企画監室

資料1

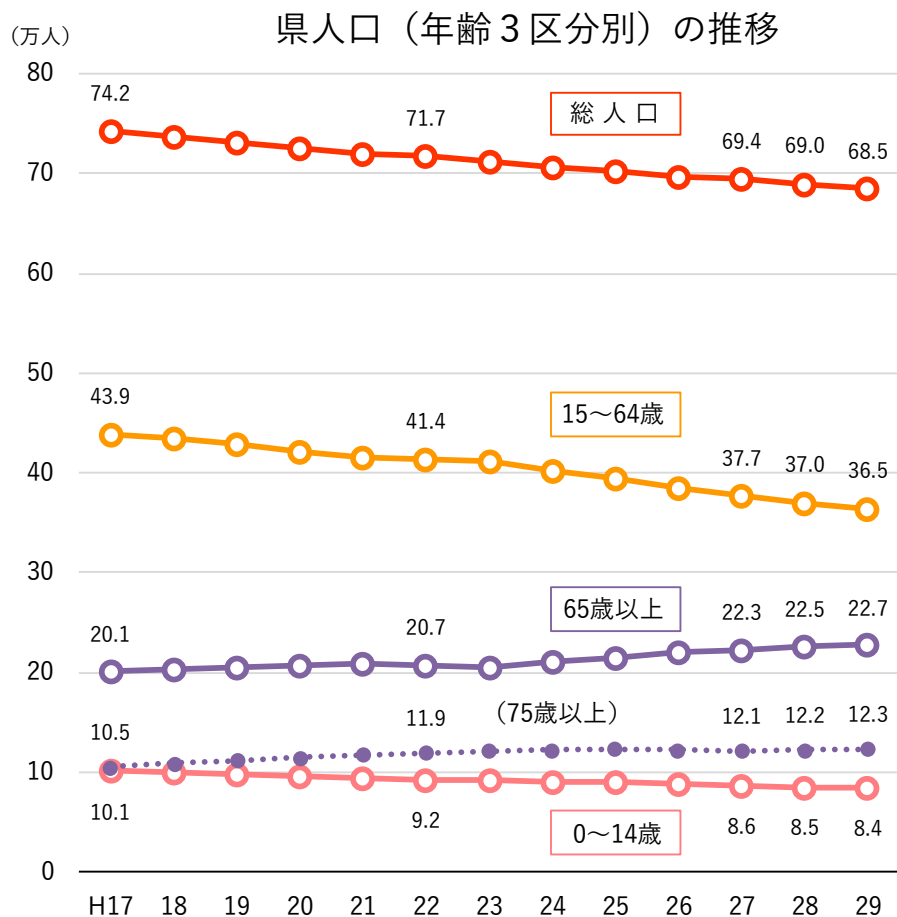
# 島根県の概況

- 少子・高齢化が進行し、生産活動の中核をなす15～64歳の人口も減少傾向
- 3圏域別では、石見圏域の減少が顕著



資料：国勢調査（総務省統計局）、「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」

- 県人口は、平均して年間約5千人の減少が継続
- 3人に1人が高齢者で、5.6人に1人が75歳以上



年齢3区分別人口 (単位：人、%)

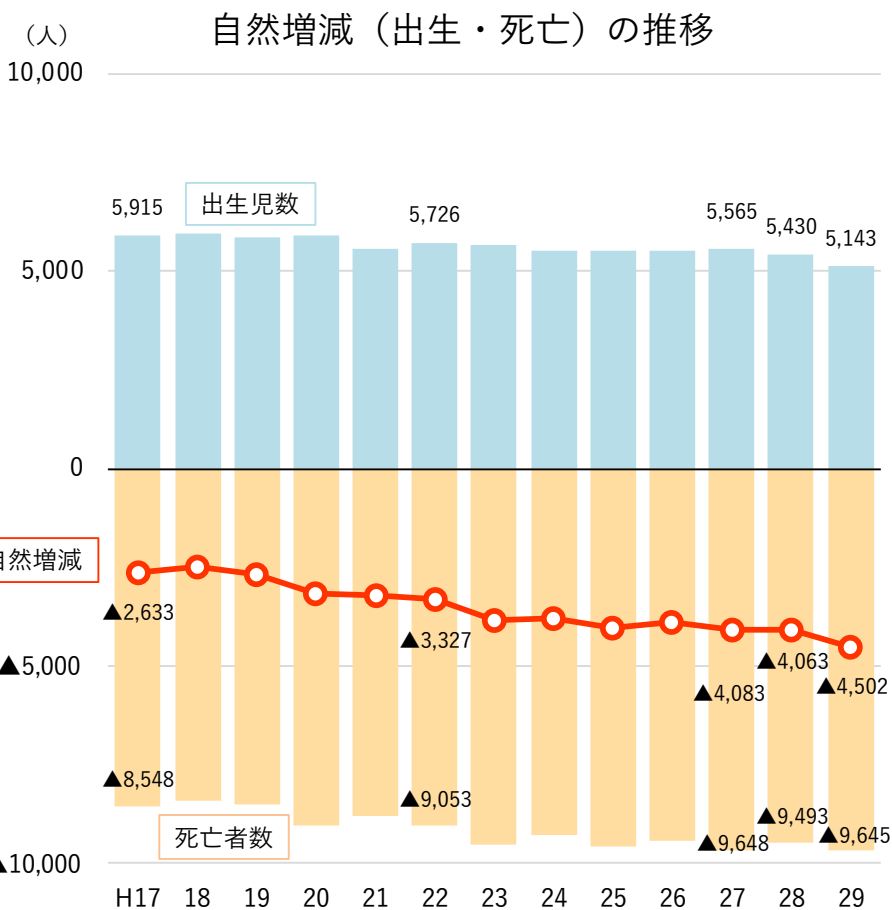
	H27年	H28年	対前年	H29年	対前年
	総人口	694,352	689,817	▲ 4,535	684,668
0～14歳	86,056 (12.6)	85,211 (12.5)	▲ 845	84,293 (12.5)	▲ 918
15～64歳	376,877 (55.0)	370,441 (54.4)	▲ 6,436	364,623 (53.9)	▲ 5,818
65歳以上	222,648 (32.5)	225,394 (33.1)	+ 2,746	226,981 (33.6)	+ 1,587
(75歳以上)	121,398 (17.7)	122,046 (17.9)	+ 648	122,679 (18.2)	+ 633

下段 ( ) 内は、構成割合

資料：「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」（H17・22・27年は、国勢調査人口）

（注）各年10月1日現在（総人口には、年齢不詳を含む）。人口移動（出生・死亡、転入・転出）は、前年10月1日～9月30日。

- 近年、出生が約5千人、死亡が約9千人で、年間約4千人の自然減で推移
- 子どもを生む年代の女性の減少により、出生児数も減少



自然動態 (単位：人)

	H27年	H28年	対前年	H29年	対前年
出生児数	5,565	5,430	▲ 135	5,143	▲ 287
死亡者数	9,648	9,493	▲ 155	9,645	+ 152
自然増減	▲4,083	▲4,063	+ 20	▲4,502	▲ 439

女性人口 (15～49歳)	H27年	H28年	対前年	H29年	対前年
	117,567	116,927	▲640	115,498	▲1,429

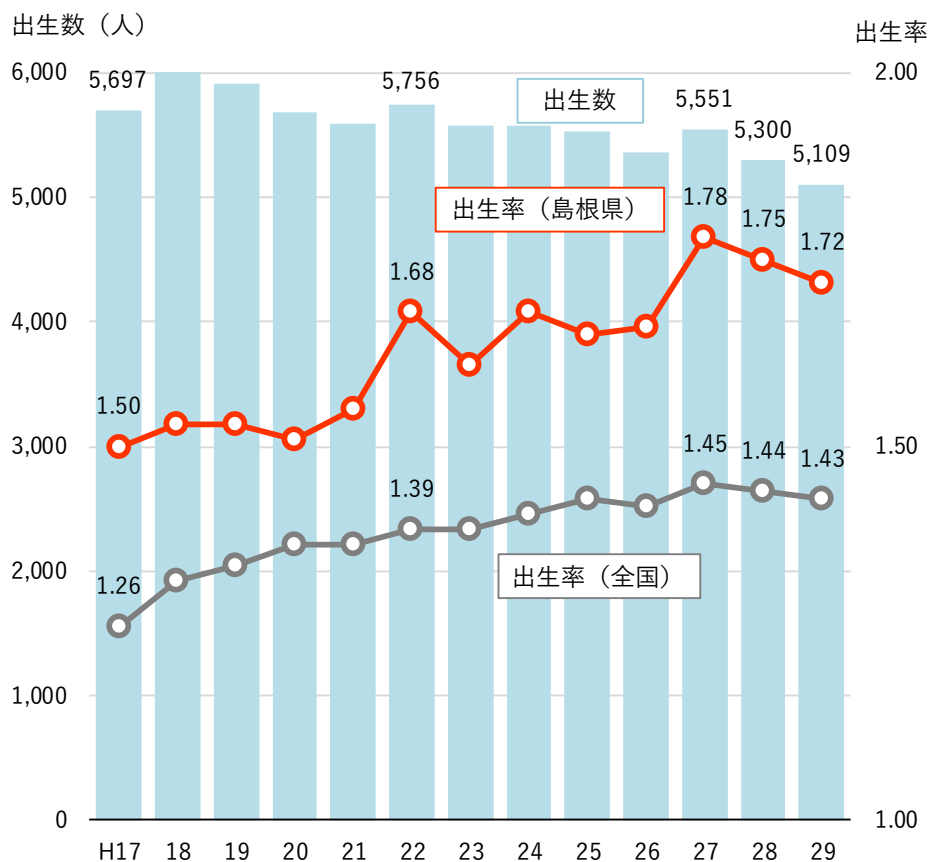
上欄（出生児数等）は、前年10月1日～9月30日

下欄（女性人口）は、10月1日現在

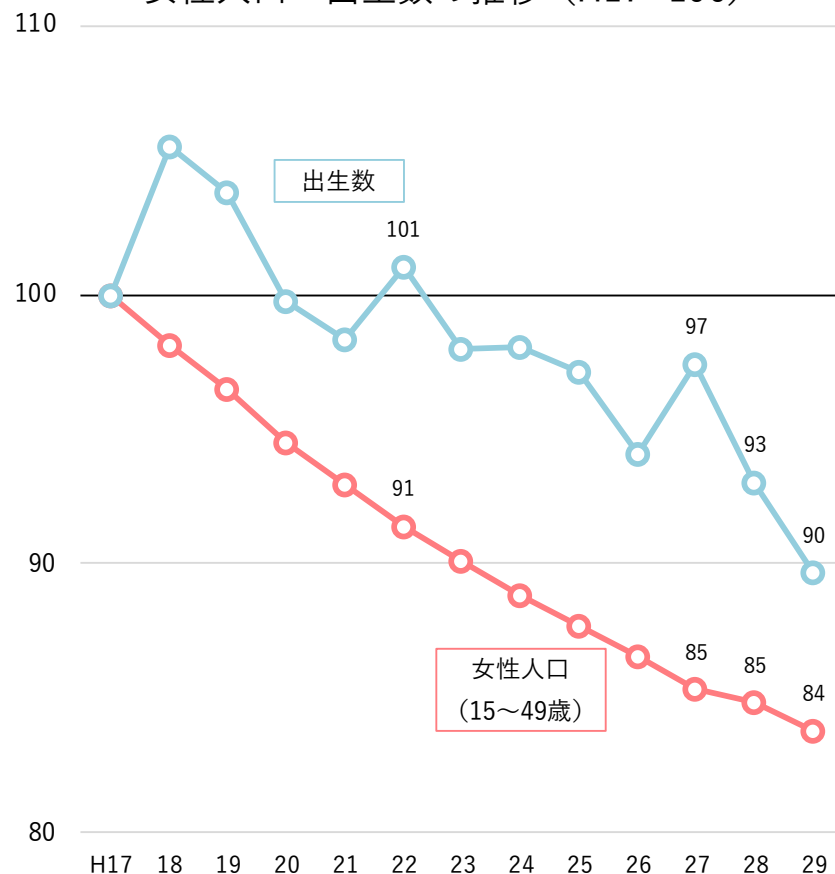
資料：「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」

- 島根県の合計特殊出生率1.72は全国3位で、高い水準を維持
- 女性人口が減少する中で、一定の出生数を確保

### 出生数・合計特殊出生率の推移



### 女性人口・出生数の推移 (H17=100)

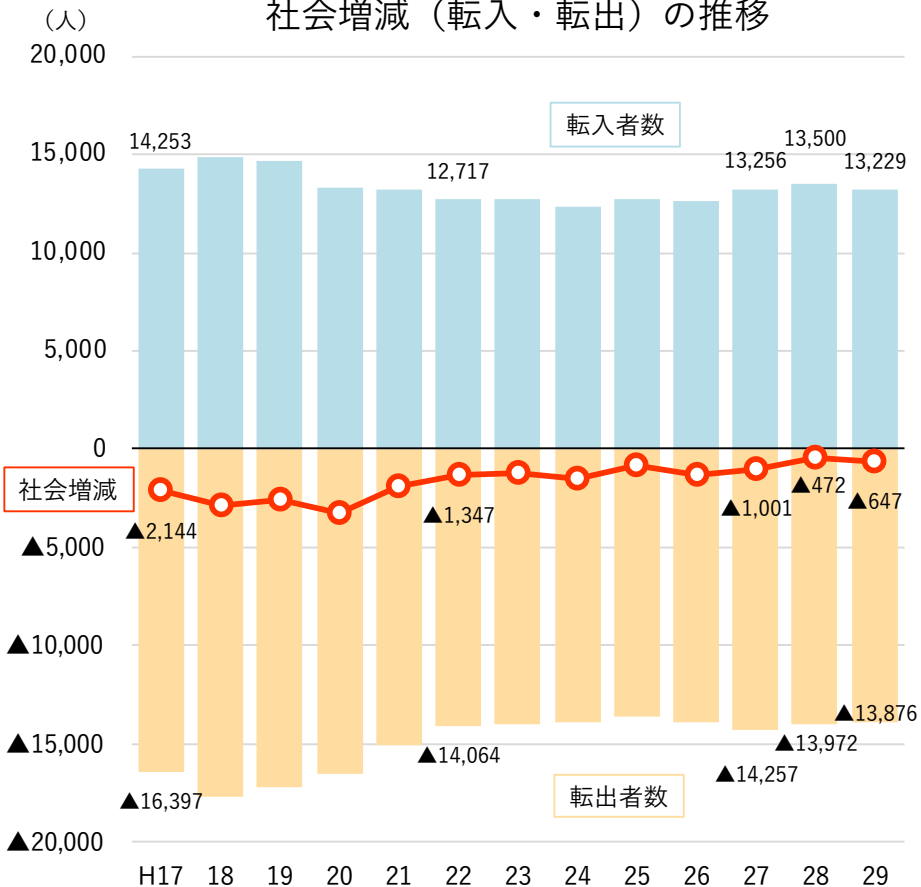


資料：出生数・合計特殊出生率＝人口動態統計（厚生労働省）〔暦年〕  
 女性人口＝「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」

（H17・22・27年は、国勢調査人口）〔各年10月1日現在〕

- 近年、転入より転出が約1千人多い社会減が続いていたが、最近は約500～600人の減
- H29年は、転出者の減少が続く中で、転入者が前年に比べ減少

社会増減（転入・転出）の推移



社会動態

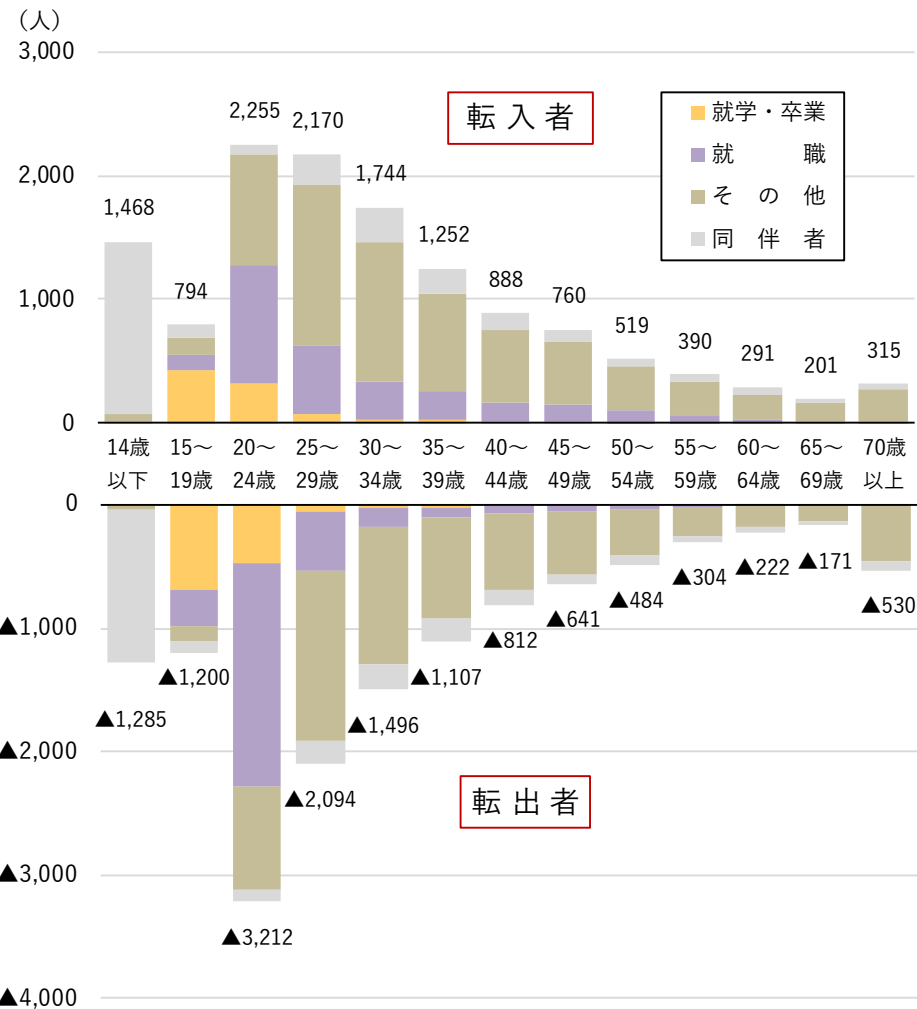
(単位：人)

	H27年	H28年	対前年	H29年	対前年
	転入者数	13,256	13,500	+ 244	13,229
(うち国外)	(1,824)	(2,004)	(+ 180)	(2,075)	(+ 71)
転出者数	14,257	13,972	▲ 285	13,876	▲ 96
(うち国外)	( 876)	( 982)	(+ 106)	(1,005)	(+ 23)
社会増減	▲1,001	▲ 472	+ 529	▲ 647	▲ 175
(うち国外)	( 948)	(1,022)	(+ 74)	(1,070)	(+ 48)

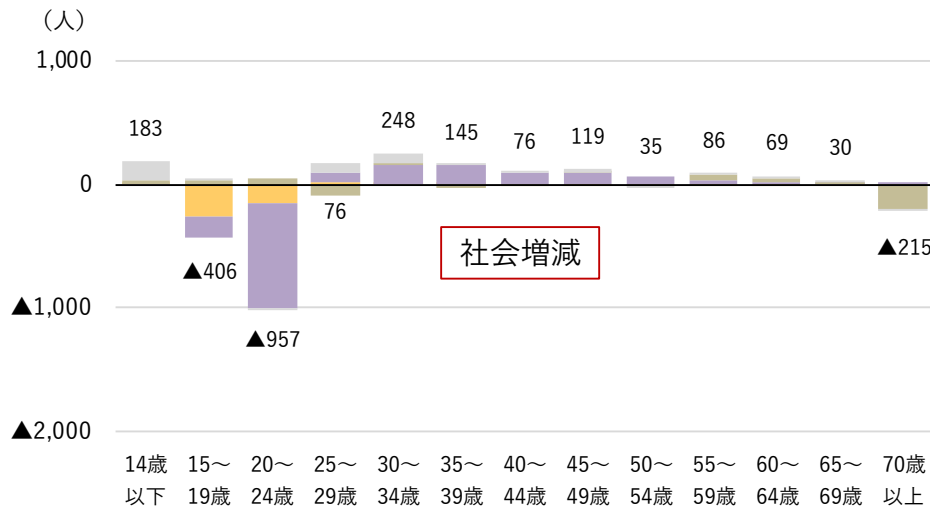
U・Iターン者数	H27年	H28年	対前年	H29年	対前年
Uターン者		4,392		4,227	▲ 165
Iターン者		2,811		2,522	▲ 289
U・Iターン者		1,560		1,649	+ 89

U・Iターン者数には、居住歴不詳を含む。

- 社会減は、15～24歳の若者の進学・就職による転出が主な要因

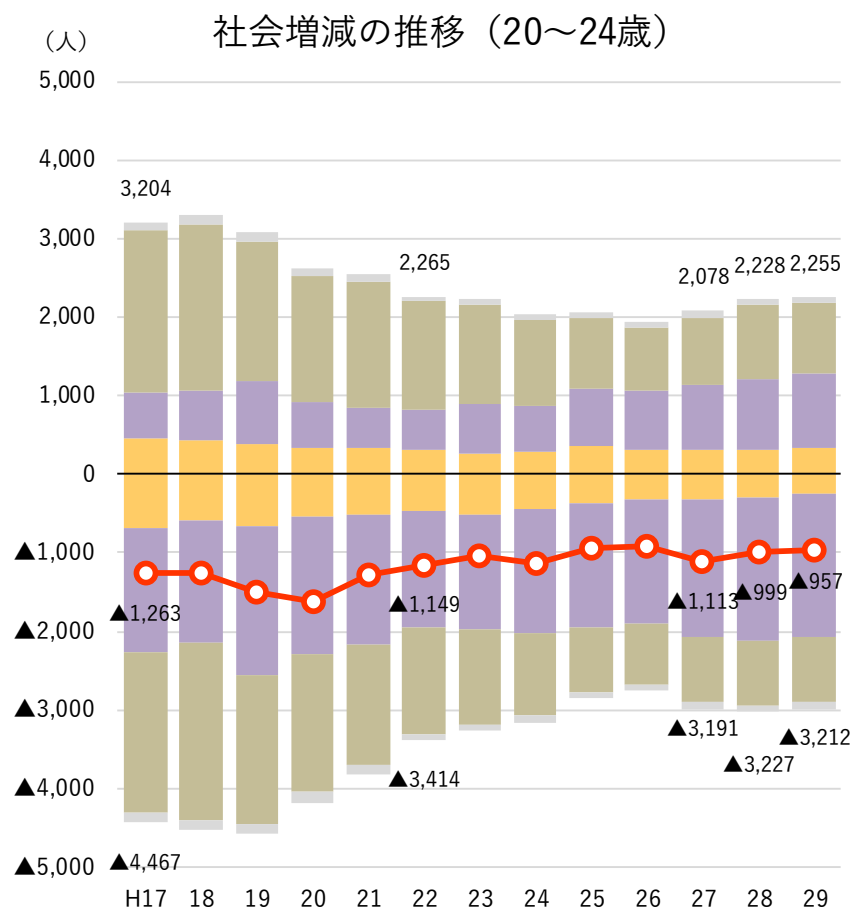
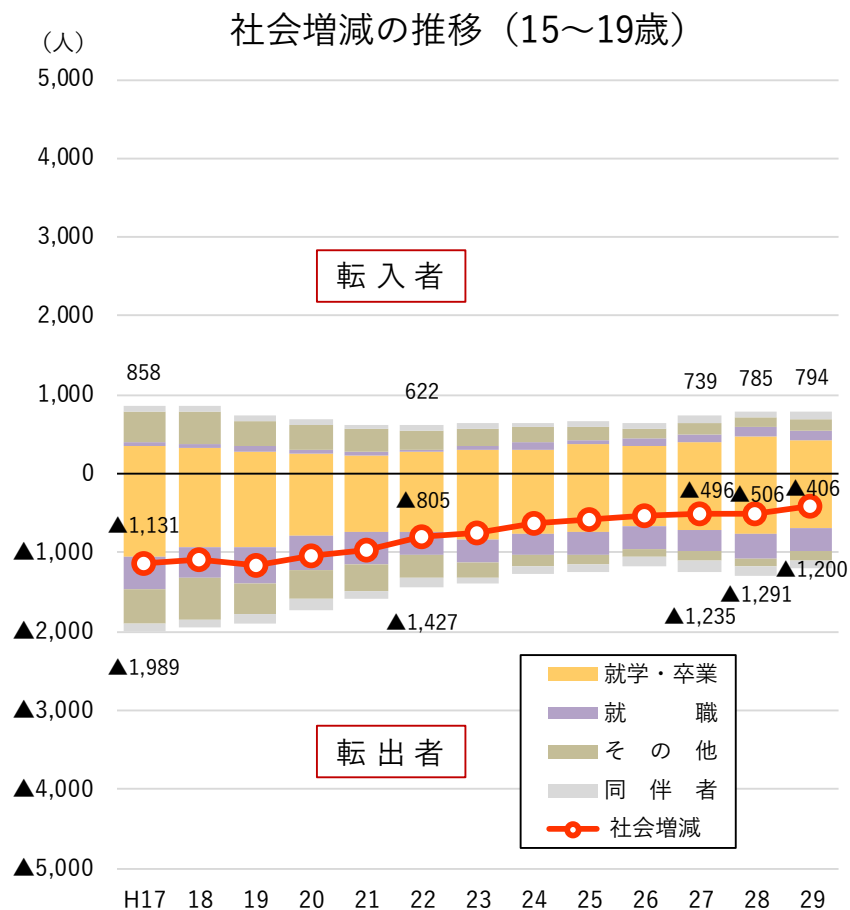


H29年の社会増減 (年齢・理由別)



資料：「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」

- 15～19歳の社会減については、転入者は一定だが、転出者は減少傾向
- 20～24歳の社会減については、概ね1千人で推移



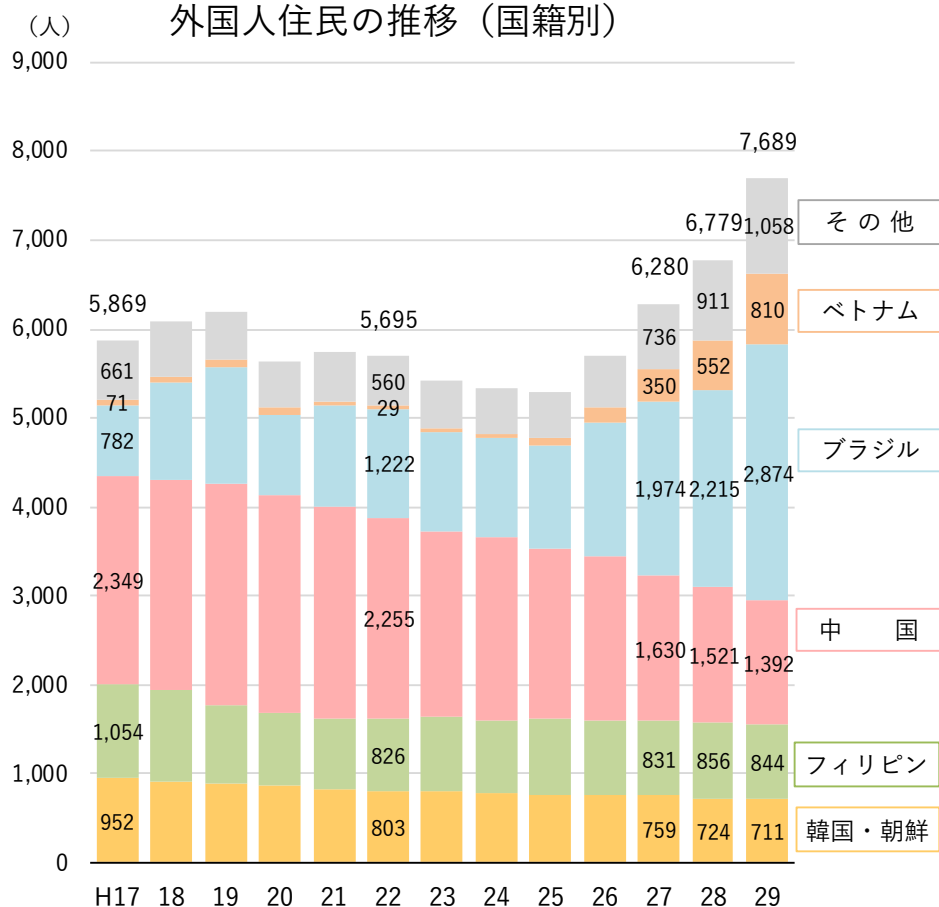
資料：「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」



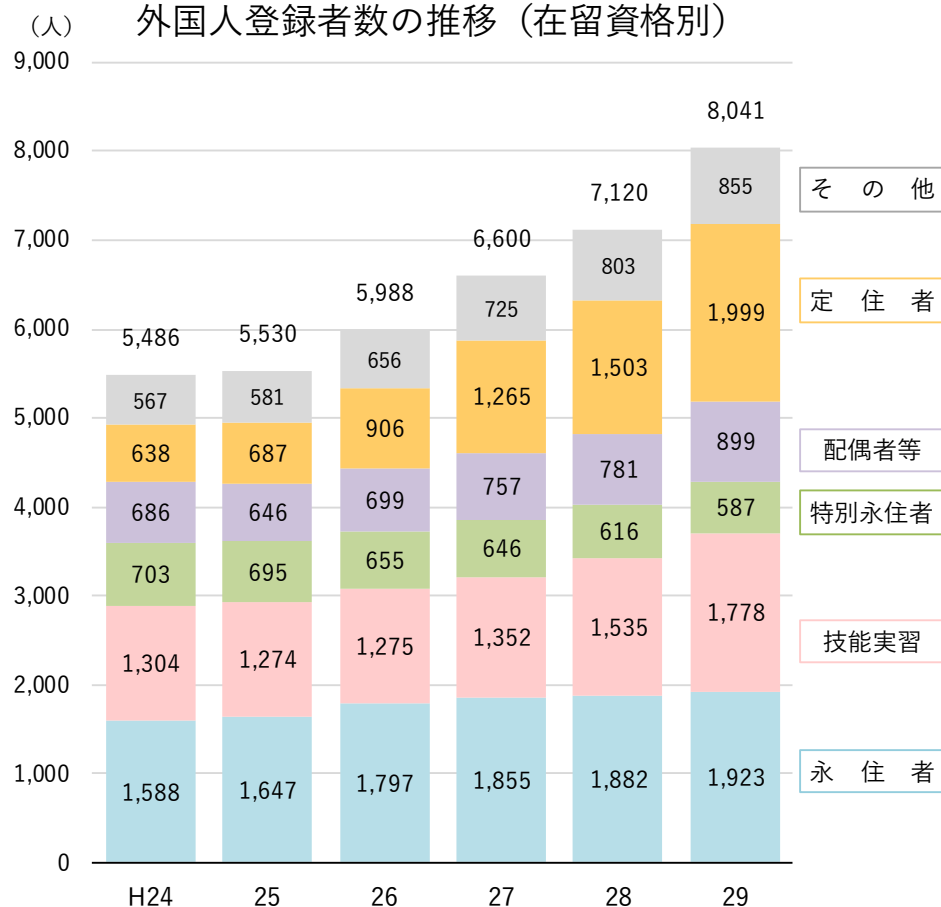
## 5 外国人住民の状況

- ブラジル人やベトナム人を中心に、H28年から29年にかけて外国人住民が900人以上増加
- 在留資格別では、日系ブラジル人などの定住者や、技能実習が増加

外国人住民の推移（国籍別）

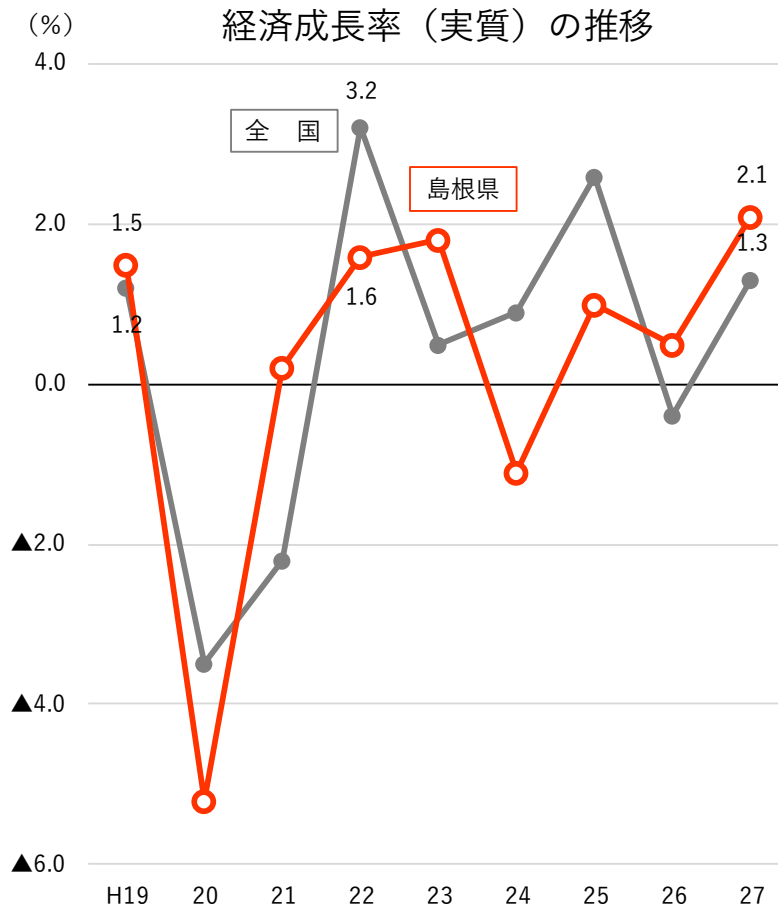
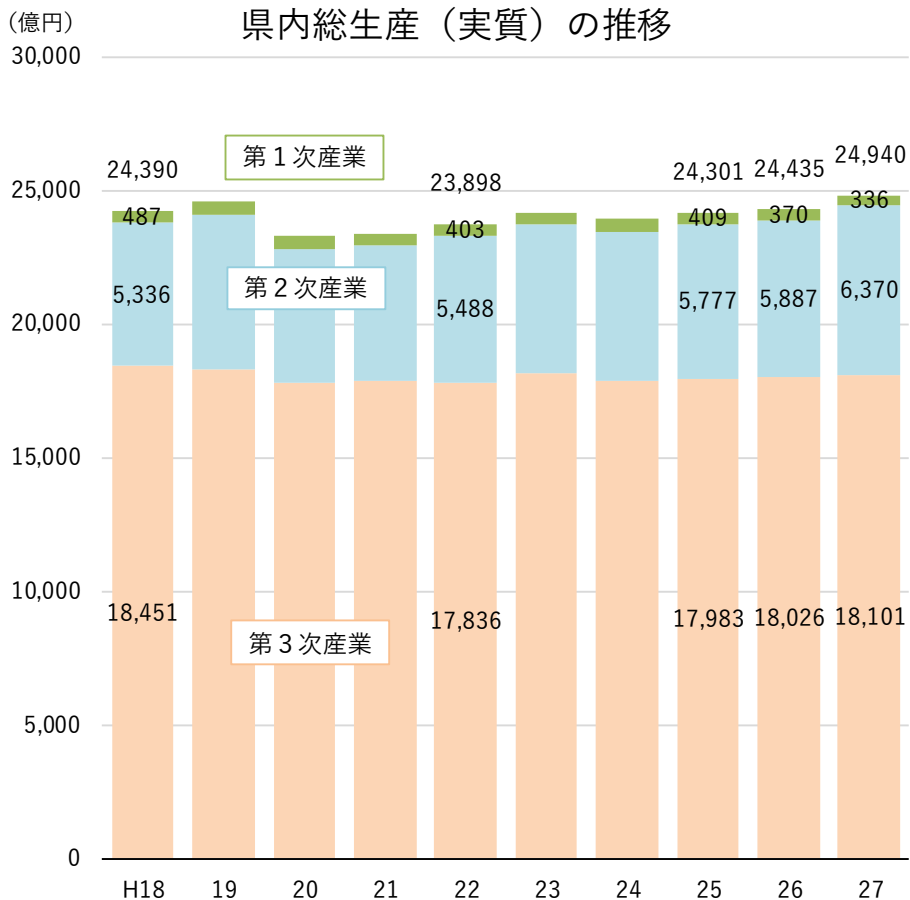


外国人登録者数の推移（在留資格別）



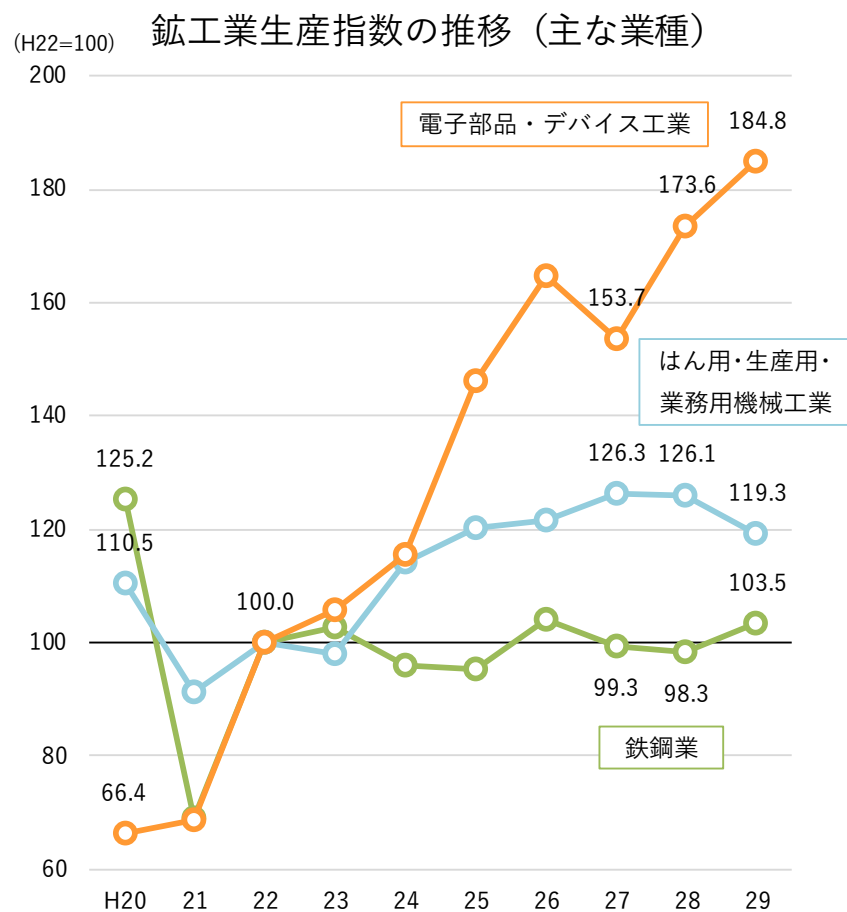
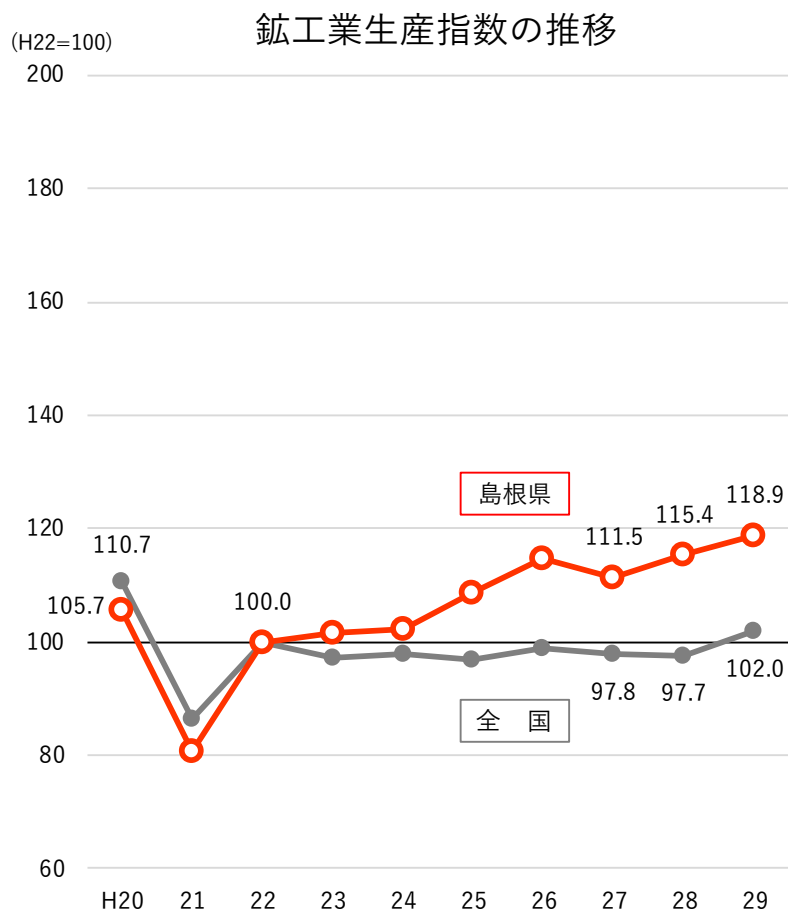
資料：外国人住民（国籍別）＝島根県文化国際課調べ〔各年12月末〕  
外国人登録者数（在留資格別）＝在留外国人統計（法務省）〔各年12月末〕

- 県内総生産は、リーマンショック以降、持ち直しの動きが持続



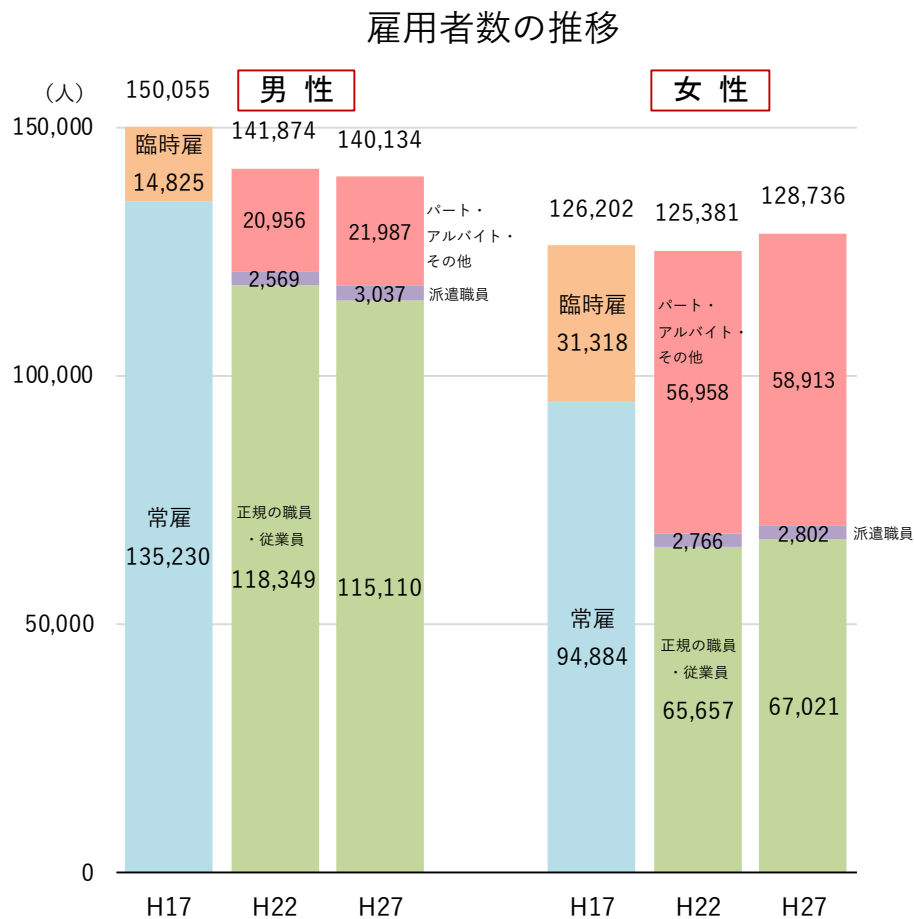
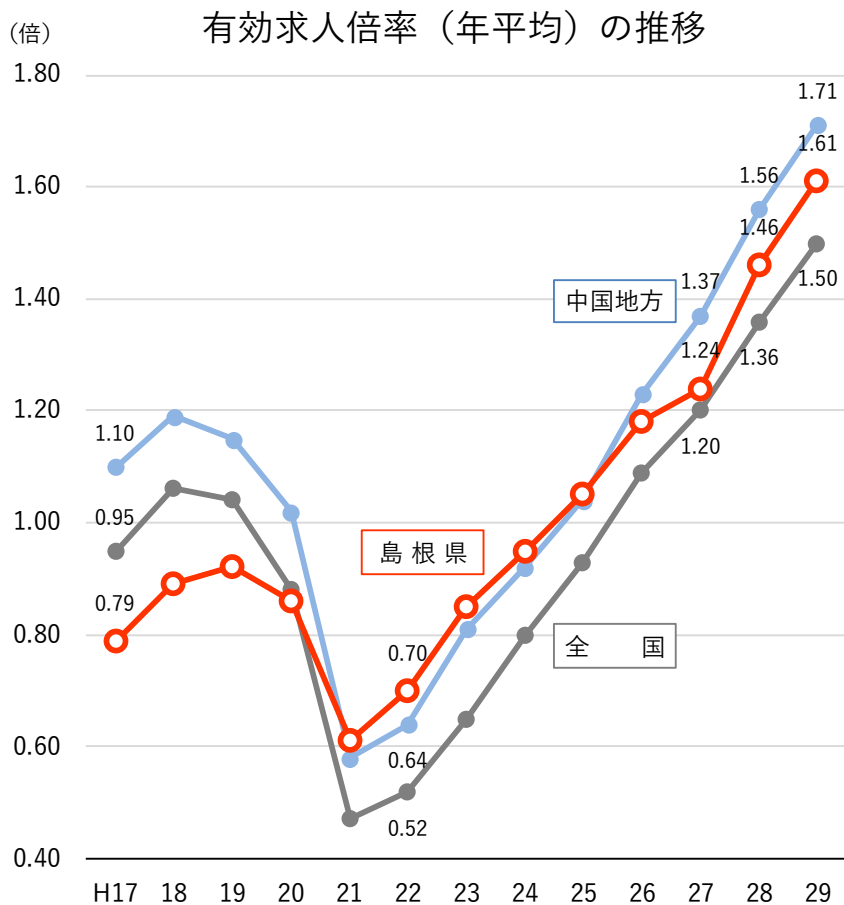
資料：「県民経済計算（島根県統計調査課）」〔年度〕

- 鉱工業生産指数は、電子部品・デバイス工業の伸びが顕著であり、全国と比べ大きく向上



資料：鉱工業生産指数（経済産業省・島根県統計調査課）〔暦年〕

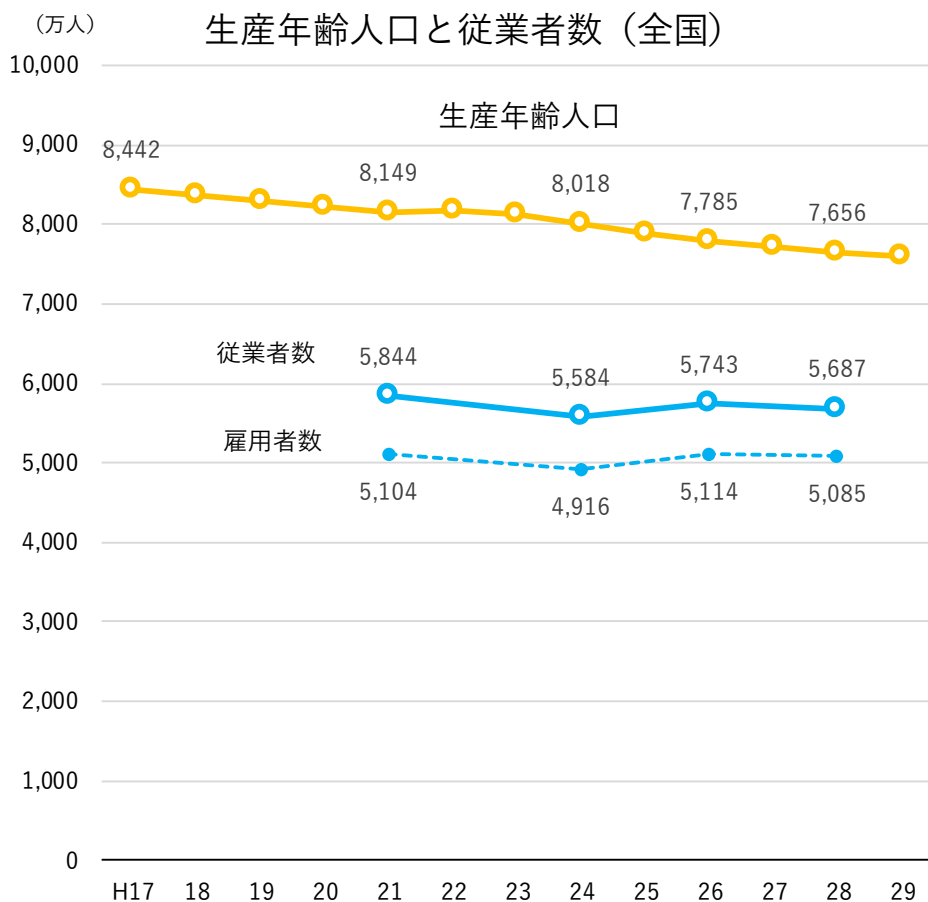
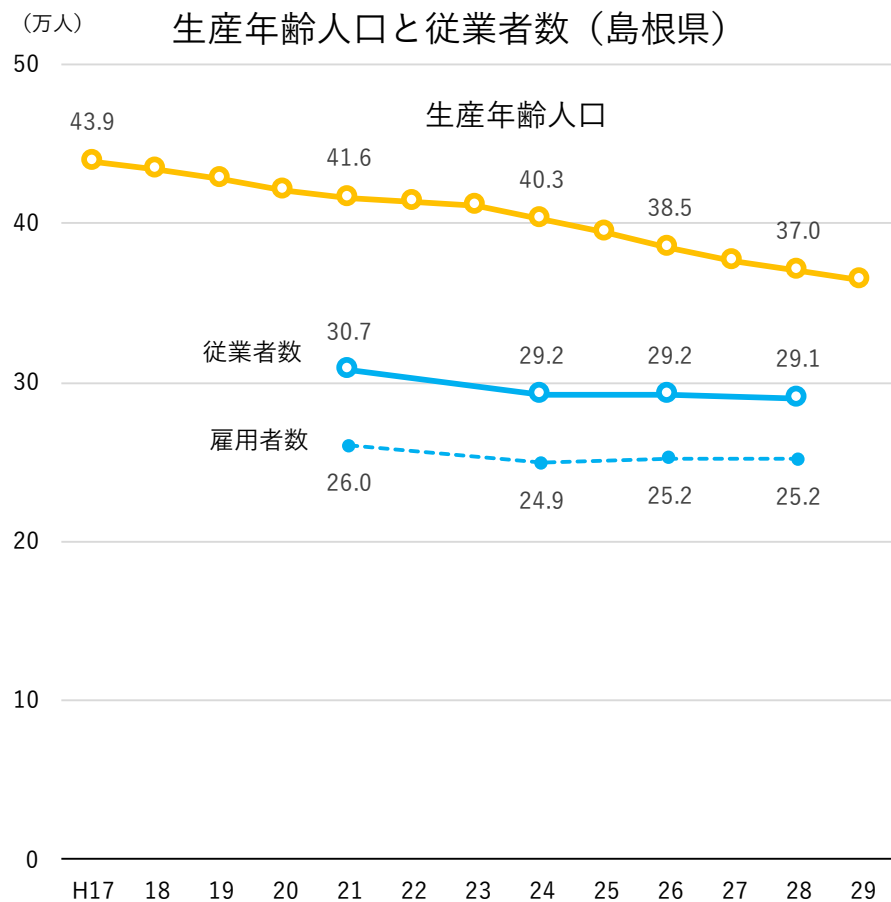
- 全国的に労働需給が逼迫し、島根県内でも有効求人倍率が上昇傾向
- 女性の雇用者数が増加



資料：有効求人倍率＝職業安定業務統計（一般職業紹介状況）（厚生労働省）〔暦年〕  
 雇用者数＝国勢調査（総務省統計局）〔各年10月1日現在〕

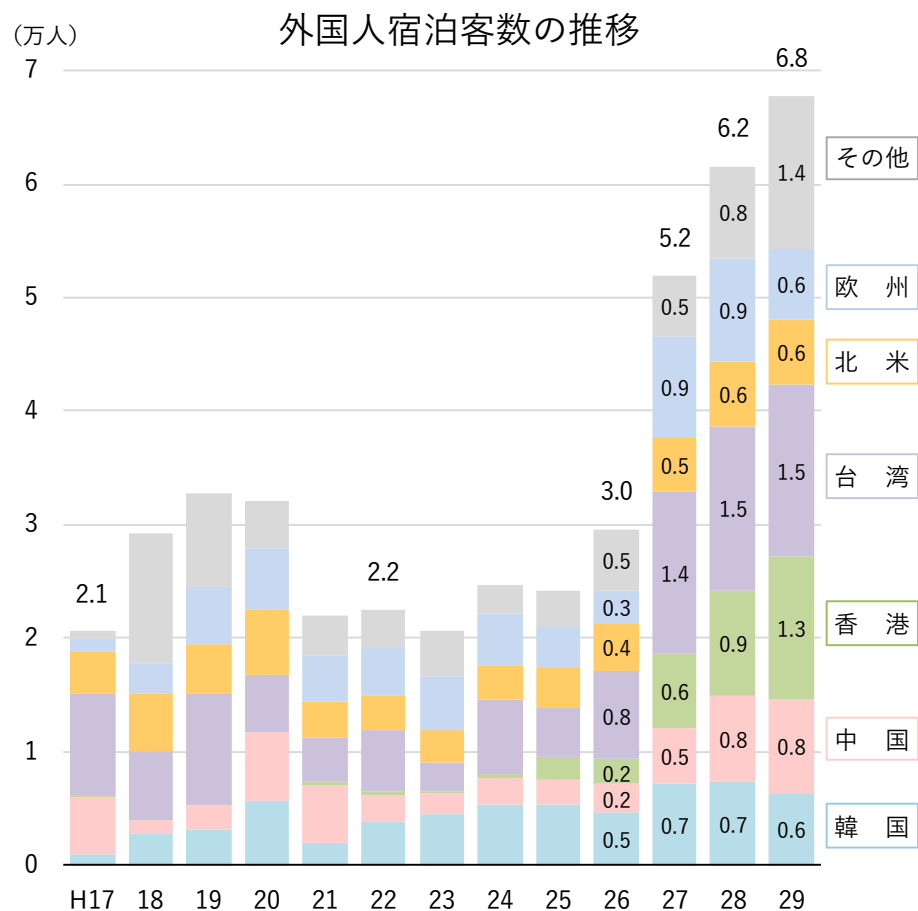
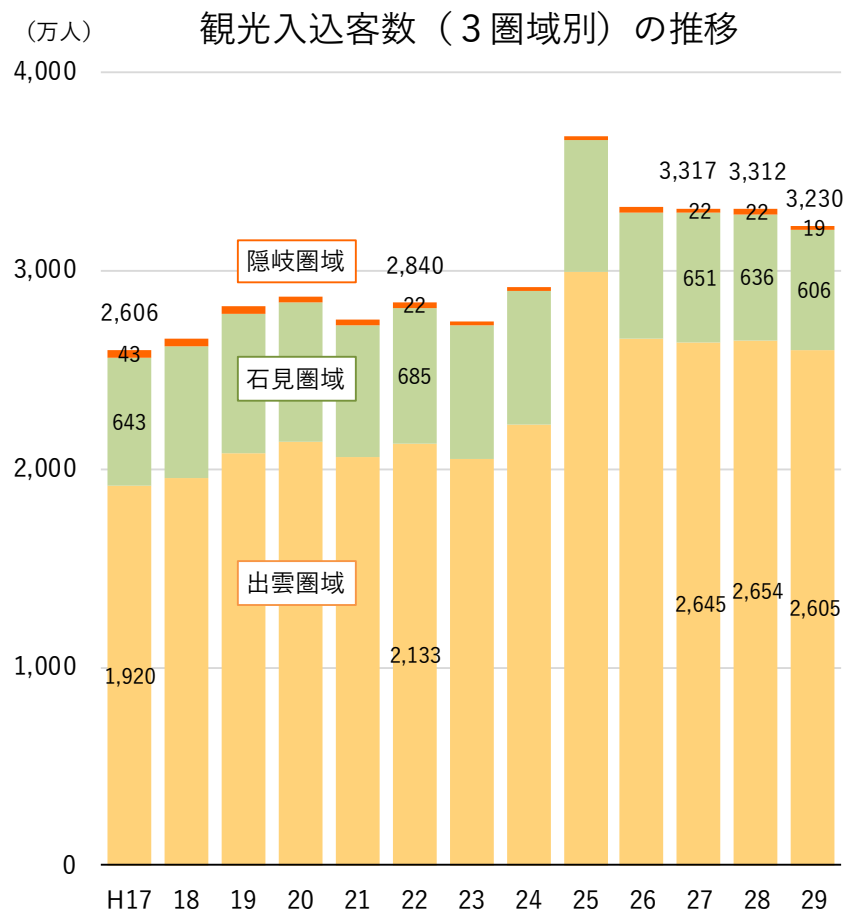
# 4 生産年齢人口と従業者

- 生産年齢人口（15～64歳）が減少する中で、民営事業所の従業者数は一定の水準を維持



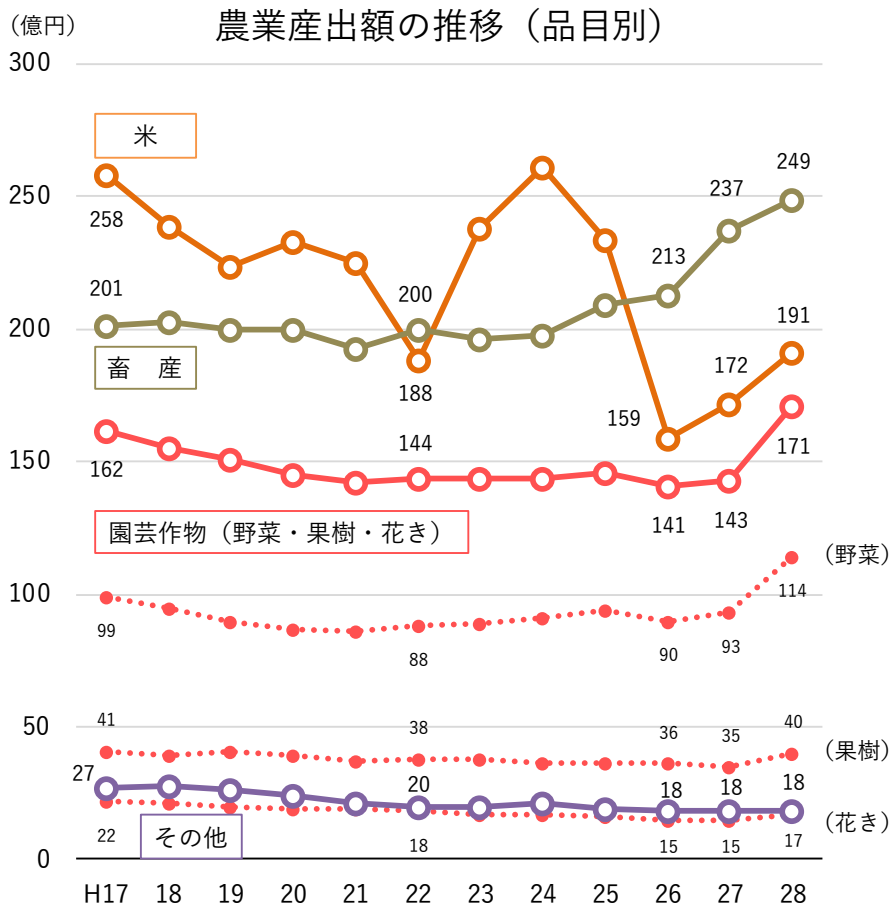
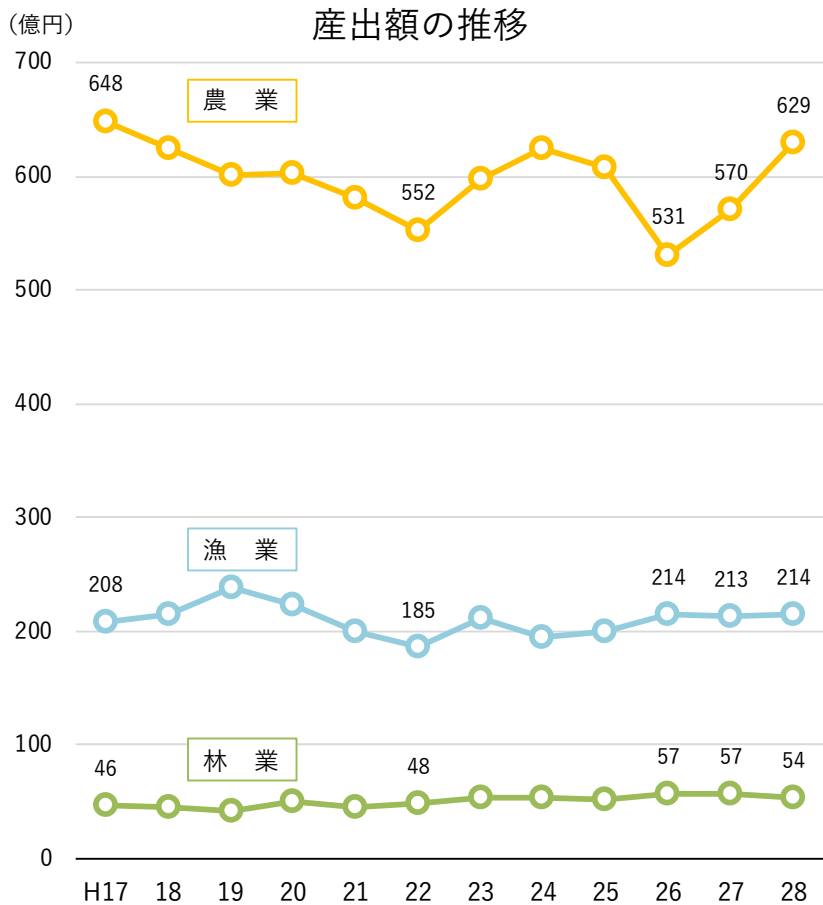
資料：生産年齢人口＝「島根県の人口移動と推計人口（島根県統計調査課）」、人口推計（総務省統計局）〔各年10月1日現在〕  
 従業者数＝経済センサス（総務省統計局）〔H21年7月1日、H24年2月1日、H26年7月1日、H28年6月1日〕

- 観光入込客数は、出雲大社遷宮などの増効果が平静化してきたが、出雲圏域で高い水準を維持
- 外国人宿泊客は、台湾・香港などを中心に、近年、大きく増加



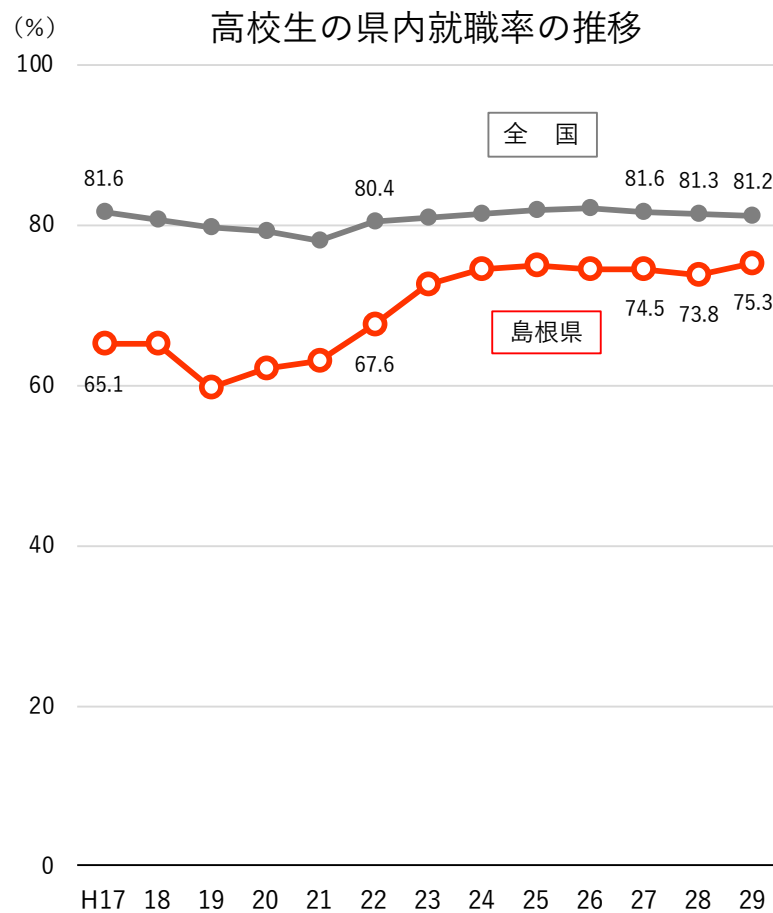
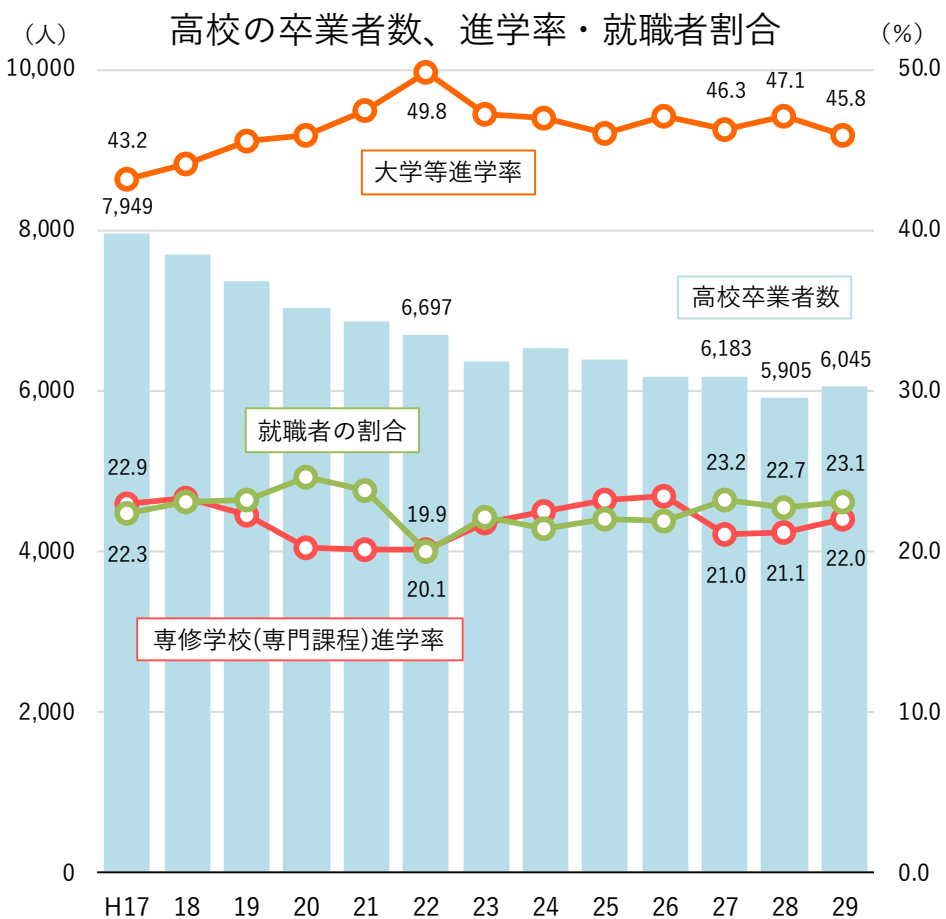
資料：島根県観光動態調査（島根県観光振興課）〔暦年〕

- 農業産出額は、米、畜産、園芸作物いずれも上昇傾向
- 漁業の産出額は約200億円、林業は約60億円で推移



資料：生産農業所得統計、林業産出額、漁業産出額（農林水産省）〔暦年〕

- 県内高校生の卒業者数は、H17年に比べ2千人減少し、概ね進学が7割、就職が2割で推移
- 就職については、7割が県内だが、これは全国平均の8割よりも低い

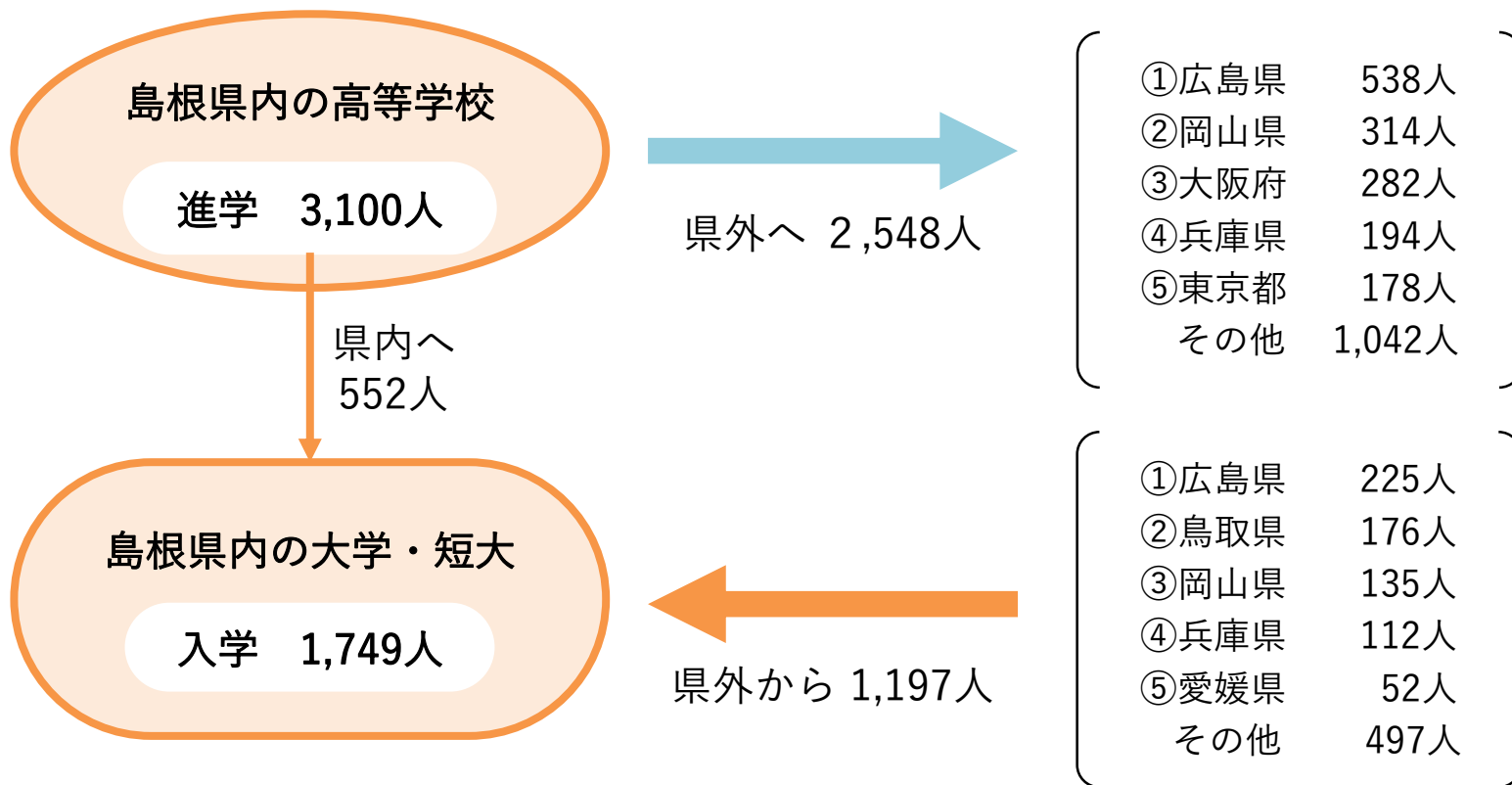


資料：学校基本調査（文部科学省）  
 (注) 各年3月の卒業者の状況



- 県内高校から大学等への進学者約3千人のうち、県内に留まるのは約600人
- 県内の受け皿は約2千人で、約1千人が不足している状況

大学等への入学状況（H29年度）

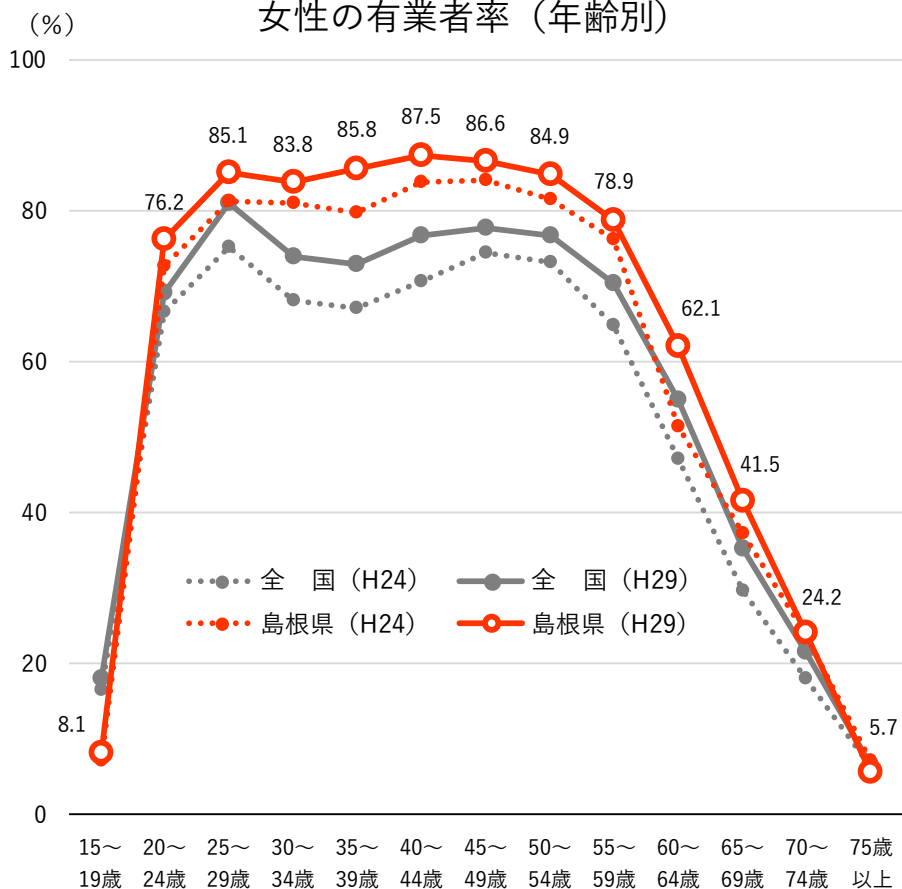


資料：学校基本調査（文部科学省）

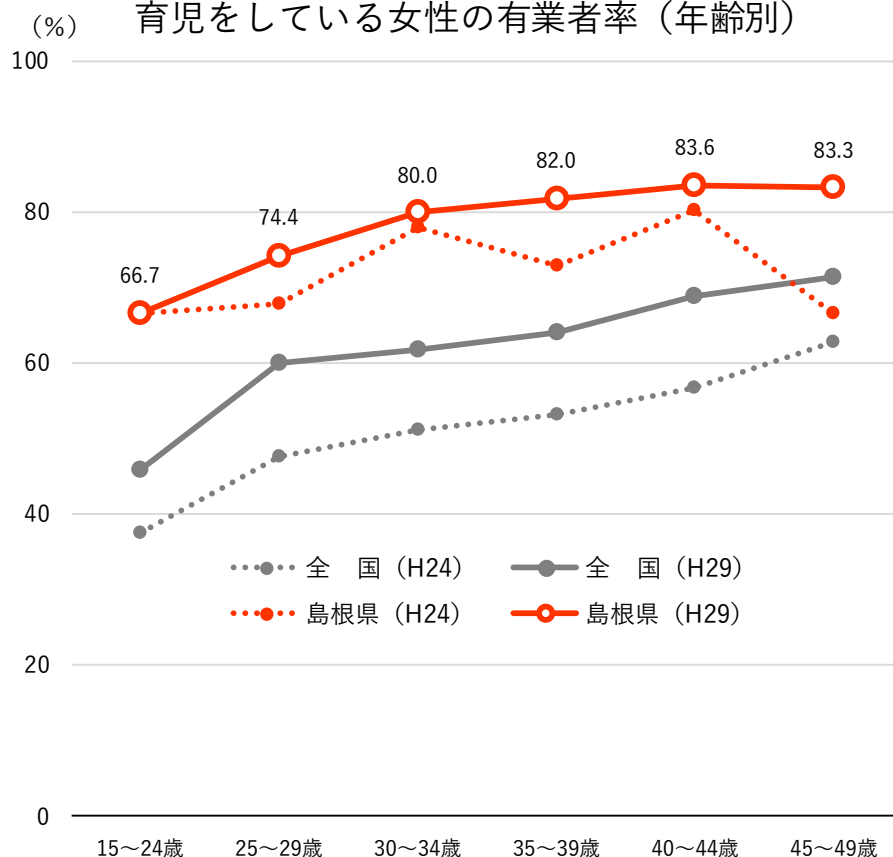
（注）大学、短期大学の計（H29年度入学者ベース）

- 生産年齢人口（15～64歳）における女性の有業者率（全国68.5%）は74.5%で、全国2位
- 育児をしている女性の有業者率（全国64.2%）は81.2%で、全国1位

女性の有業者率（年齢別）



育児をしている女性の有業者率（年齢別）

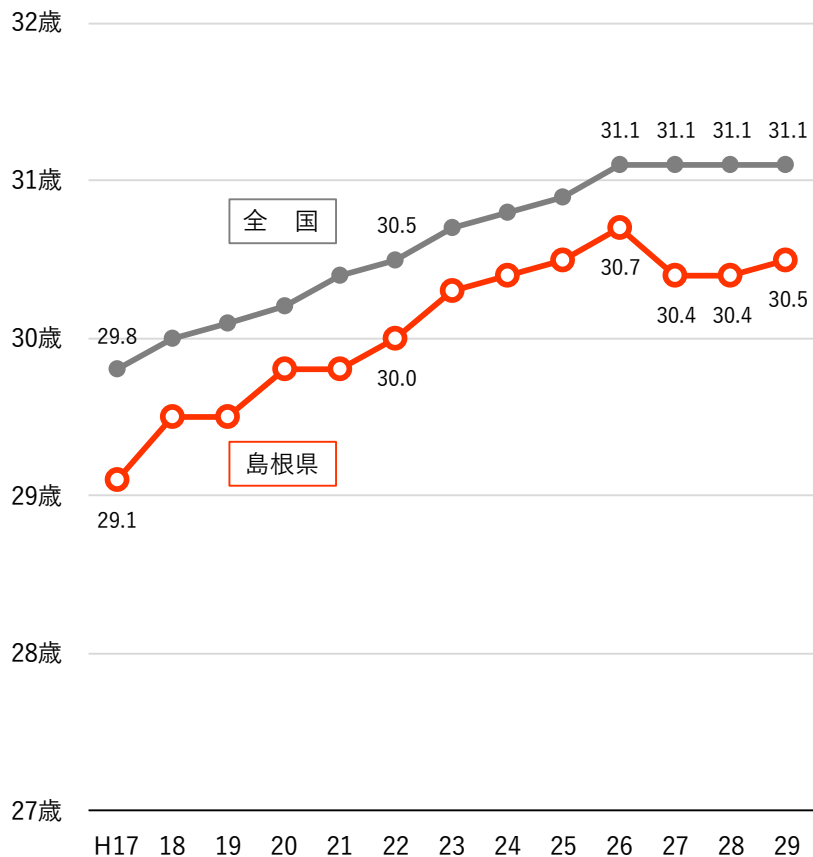


資料：就業構造基本調査（総務省統計局）

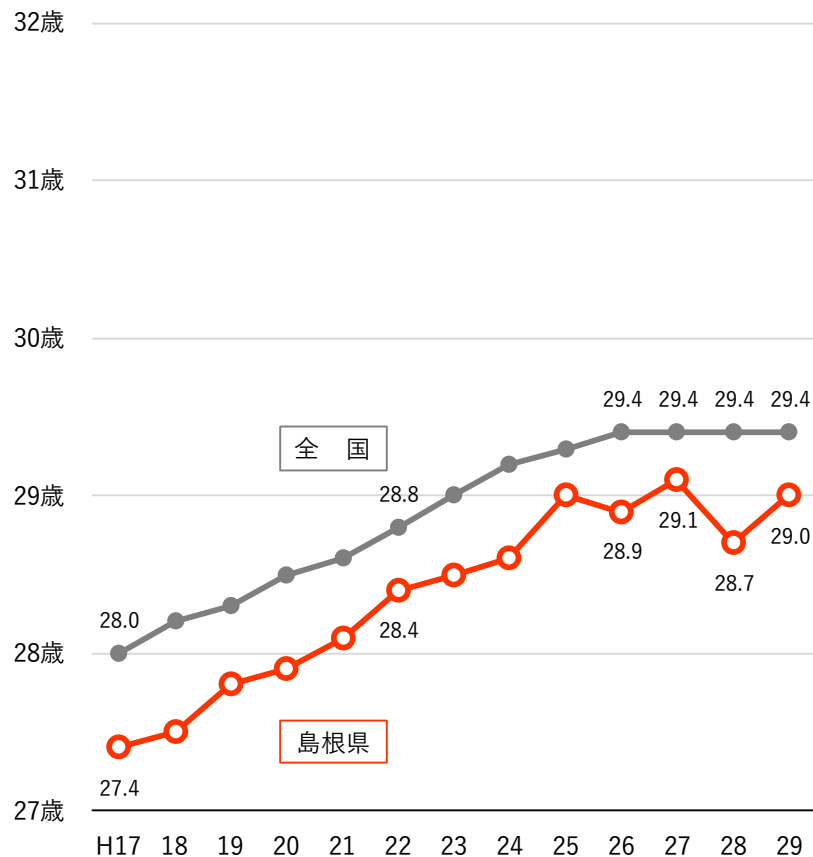
H24年は、それぞれ全国5位（全国63.1%、島根県69.8%）、全国1位（全国52.3%、島根県74.3%）

- 全国と同様に平均初婚年齢の上昇が続いてきたが、近年は低下する傾向

平均初婚年齢の推移（男性）



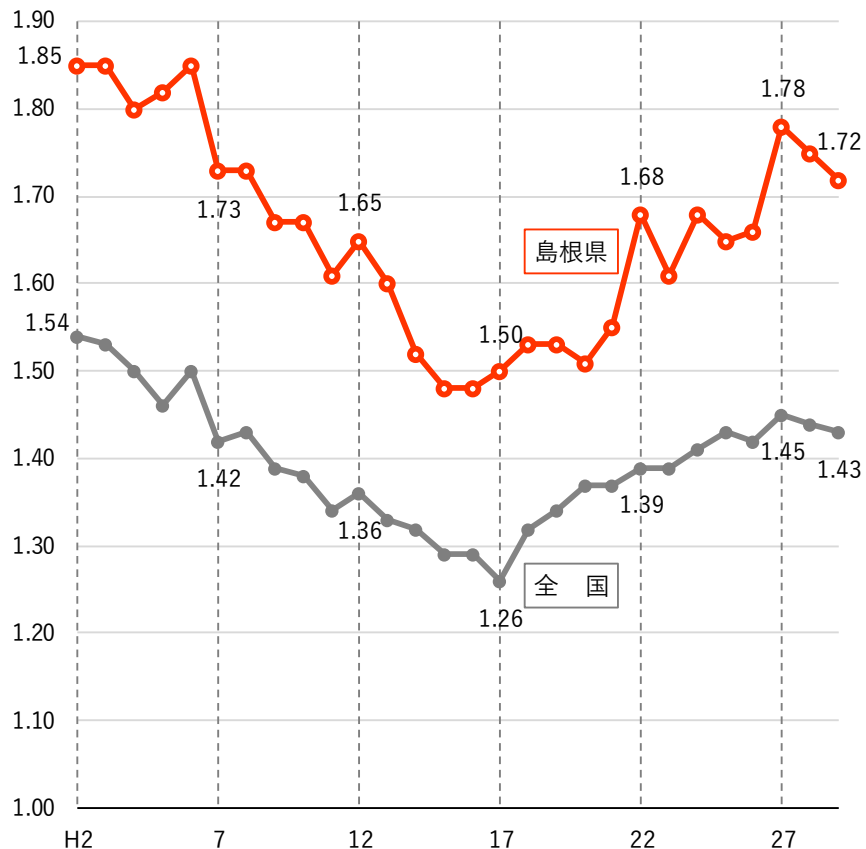
平均初婚年齢の推移（女性）



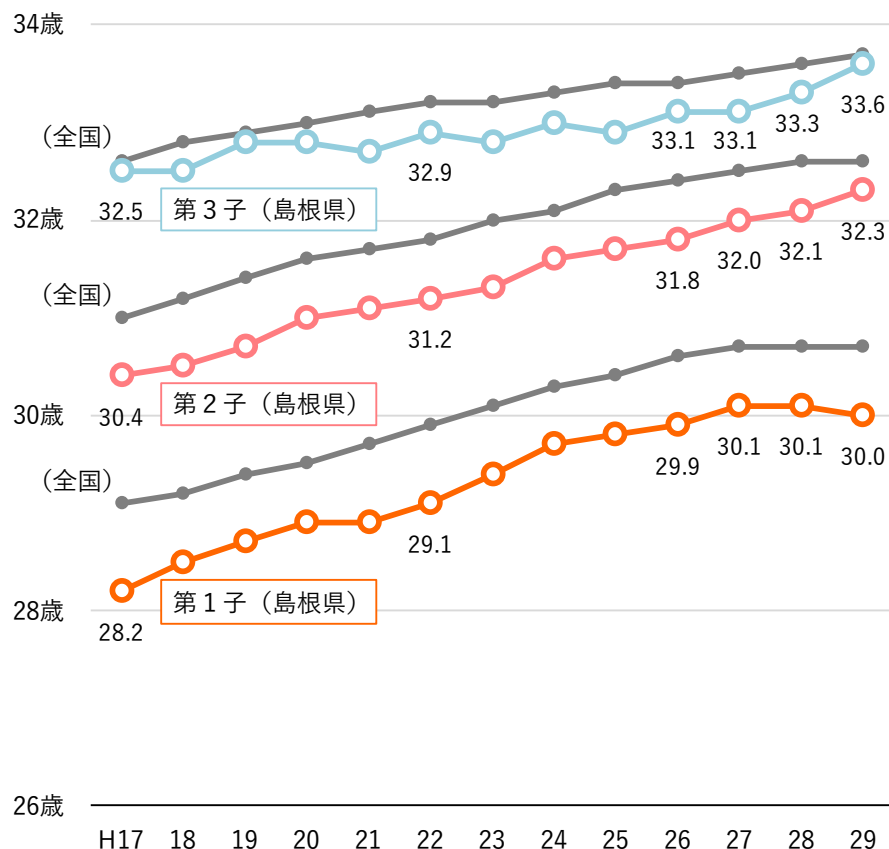
資料：人口動態統計（厚生労働省）〔暦年〕

- 合計特殊出生率は、施策の充実などによりH17年頃から上昇に転じている
- 平均出産年齢は上昇傾向だが、第1子では上げ止まりもみられる

合計特殊出生率の推移



平均出産年齢の推移



資料：人口動態統計（厚生労働省）〔暦年〕